

挑発分子「2斗委」らの策動を許すな！

全学友は団結の輪を拡げ

今こそ総決起しよう！

一九六九年六月十二日

日本民主青年同盟 市大2部班

○市大2部の全学友諸君
祖国と青年の解放にと。歴史的な意味を持つ、一九七〇年六月三日をさもなくば一年後に迎えるであろう。

この日に向つて、安保破壊沖縄返還の叫びを、さらに急速に発展させ勝利の力である民主勢力の統一戦線とその一翼となる青年戦線の統一を實現することは、日本の青年、学生運動にと。てまた我々同盟にと。て最も重大で緊急な任務となっている。

アメリカ帝国主義は、ベトナム侵略戦争との相次ぐ失敗から「アジア人をアジア人と戦わせる」政策を持ち出し、日本を従属と侵略戦争の道へ一層引き込みようと死に凝っている。自民党佐藤政府はこれに積極的に対応し沖縄の「核基地」を、自由使用返還にまでこじ、日本全土を核武装化し、日本安保条約を核軍主同盟に改題し、自衛隊の海外派兵、日本の軍国主義復活の道をまっしぐらに進めようとしている。

その上政府、自民党はこうした政策に対する人民と青年、学生の反響を恐れ、安保、沖縄問題での全面的対決を避け、みづから泳がせているトロツキスト挑発分子などを利用して、去る五月二十四日「大学の暴行」に関する臨時措置法案を国会に上程し、大学、教育問題を前面にたてて政府をのり切ろうとしている。この政府の大逆立法は、大学問題を解決するのではなく、大学の一層の反動化と自治の破壊によつて学生、教職員の特権を圧殺し、大学の解体と反動的な再編成の方向を強行しようとする以外のなにものでもない。

「こうして今、我々の前には、大学の自治の破壊と民主主義の正統をはかる政府、自民党の策略を許すな、それとも反動的「大学立法」を阻止し、大学の自治と学問の自由を守り、学園を民主化する」とによつて、政府、自民党の策略を粉碎し、民主主義擁護闘争を一層発展させるか——この二つの道のまぎししい対決がせまられている。

○市大2部の全学友諸君

今回の自治会選挙は、そのい、た情勢のもとで極めて重要な意味を持っている。今ほとんどひとりの学友が自覚的に団結し、団結の輪をさらに広げ全員加盟自治会を作り、これの民主的現代のために、かういふことが重要になる。この時はない。それは、大学の自治と学問の自由、民主的教育の成果を守り民主主義を守るにたないため。

この時、「ボツタム自治会ナンセンス」などと言つて全員加盟自治会を攻撃し、「全英闘」を擁護し、法務院などと「大学立法」に反対するようなボスをとりながら「全学バリエード封鎖」にしかみつか、今回の自治会選挙に対しても二度にわたつて受付場所にヘルメット、盾、鉄パイプで武装しておしかけ、選挙、学生大会粉碎を叫んでいる。「全英闘」「二闘委」ら反革命挑発分子の策動は反動勢力の手先となり、大学の自治を内部から破壊するものであり、我々の押しすすめる民主化闘争とは一切無縁のものである。はかりな右翼であり、必ず全学友の団結の力によつて退き、大学の策動の根をうばい取りかねない。私たちは「理不尽な暴行をこのまゝ黙認すること」はもはやありえないであつた。

○市大2部の全学友諸君

○クラス、サークル、セミなど今回の自治会選挙、学生大会の意義を討論し、彼らの暴力行為を明らかにし教員と共に決議をあげよう。(糾弾と学園からの退治決議を)
○クラス会に参加しない学友に参加者全員でオルタしよう。
○学部(この独自の集会)を企画し、全学友を結集しよう。
○地域、学組へクラスごとに宣伝活動をするよう。
○全学友諸君、ともに団結し斗い抜いてきた全ての学友諸君
嵐は木を倒せる。今こそ我々は嵐のすべての力をささげ勇戦に斗い抜こうではないか。